

## 第8回 地方独立行政法人知多半島総合医療機構評価委員会議事要旨録

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時 | 令和8年8月5日（水） 14時00分～15時30分                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 場 所 | 知多半島総合医療センター 3階大会議室                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 出席者 | <p>【評価委員】<br/> 半田市医師会会長 中條 武秀 委員長<br/> 知多郡医師会常滑市医師団代表 伊藤 真介 副委員長<br/> 岩手県八幡平市病院事業管理者 望月 泉 委員<br/> 和田公認会計士事務所 和田 頼知 委員<br/> 半田商工会議所 小柳 厚 委員<br/> 学校法人日本福祉大学看護学部看護学科教授 白尾 久美子 委員</p> <p>※委員6名全員出席により、定足数は充足</p> <p>【地方独立行政法人知多半島総合医療機構】<br/> （理 事 長）知多半島総合医療機構 渡邊理事長<br/> （副理事長）知多半島総合医療センター 岡田院長<br/> 知多半島りんくう病院 野崎院長<br/> （理 事）知多半島総合医療センター・知多半島りんくう病院 大塚副院長<br/> 知多半島りんくう病院 竹之内副院長<br/> 知多半島総合医療センター・知多半島りんくう病院 品田医療技術局長<br/> 白井 麻希<br/> （法人本部）榊原本部長<br/> 小羽副本部長</p> <p>設立団体<br/> 【半田市】<br/> 小林福祉部長<br/> （健康課）太田課長、内藤副主幹、榊原副主幹、別府主事<br/> 【常滑市※事務局】<br/> 中村こども健康部長<br/> （健康推進課）鈴木課長、田中課長補佐、服部副主幹</p> |

### 【内容】

※渡邊理事長挨拶

#### 1. 開会

- ・資料確認、傍聴人数及び出席人数報告  
当日傍聴者 7名

## 2. 議題

### <報告>

#### (1)令和8年度評価委員会開催予定について(常滑市 鈴木健康推進課長)

##### 資料1に沿って説明

- ・ 今年度は、地方独立行政法人知多半島総合医療機構（以下、「法人」と表記）設立後、初めての業務実績評価を行う年であり、令和7年度の年度評価に先立ち、法の規定に基づいて、法人から6月末に財務諸表及び事業報告書、業務実績等報告書の提出を受け、両市において承認した。
- ・ 年度評価にあたっては、その結果を市議会に報告する必要があるとあり、両市で協議して12月定例会に報告していくこととしている。10月初旬までに、少なくとも2回は評価委員会の開催が必要であるとして、今年度の開催日を調整した。
- ・ 第1回を本日8月5日、第2回を9月30日に開催予定。
- ・ このほか、必要に応じて随時開催の可能性あり。

#### (2)令和7年度運営状況について(機構法人本部 榑原本部長)

##### 資料2（1～5）に沿って説明

##### ▼知多半島総合医療センター

- ・ 新病院開院にあたり、病床416床で運用を開始した。年間の新規入院患者数は13,620人と、目標を18.4%上回る結果となった。旧半田市立半田病院と比較しても、病院移転の4月を除く全ての月で前年度を上回っている。後ほど紹介するりんくう病院の急性期入院患者数の目標未達分についても、総合医療センター側で十分カバーできている。
- ・ 病床稼働率についても、移転月を除いてほぼ達成できている。新規入院患者数が大幅に増加した反面、平均在院日数が8.6日と前年度比で1.4日の短縮となったことで病床稼働率は1.0ポイント増加に留まった。
- ・ 主要な機能である救急医療については、救急搬送件数は1万件を超え、県下有数の規模となった。

##### ▼知多半島りんくう病院

- ・ 入院については、急性期、回復期リハ、地域包括ケアのいずれにおいても、患者数・単価ともに目標未達となった。外来についても、単価は目標達成したものの、患者数は目標未達となっている。
- ・ 特に急性期病床については、総合医療センターに機能集約したこともあり、稼働が低下している状況である。これを踏まえ、令和8年3月1日から急性期病床を43床削減し、93床から50床へダウンサイジングした。
- ・ 回復期リハ病床については、目標稼働率を97%と高水準で設定したこともあり目標未達の状況であるが、担当医師の確保や転院調整の迅速化等の取組により、令和8年6月以降は前年を上回り改善傾向にある。

##### ▼訪問看護ステーションきずな

- ・ 訪問件数は目標未達の状況である。
- ・ 組織運営では、両病院の組織の文化融合と効率化を目的とした取組や、2病院間が直線距離で3キロメートルであるという物理的なメリットを活かして職員交流や相互協力を努めている。

- ・広報や地域連携にも注力し、令和7年度はクラウドファンディングにも新たに取り組んだことで、医療機関以外の企業等と接点を持つことが可能になり、救急医療や災害医療といった機構の活動を周知する機会となった。
- ・その他、将来の医療従事者確保に向けた若年者対象の職場体験等も開始した。

#### ▼決算状況

- ・営業収益については、医業収益が年度計画比でマイナス6.6億円となったものの、補助金収益により、年度計画比マイナス1.4億円の228.7億円となった。
- ・一方、営業費用については、給与費の増はあったものの経費や減価償却費の縮減により、年度計画比マイナス5.2億円の250.3億円であった。
- ・この結果、営業収支については、年度計画より3.8億円改善した21.5億円の赤字となり、経常収支は33.9億円の赤字と計画内に収まった状況である。
- ・運営資金は年度計画比で15.7億円改善の104.8億円となった。これは、新病院開院に伴う費用の縮減により、開始時点で予定より12.7億円多く保有していたことに加え、10.7億円の減少を予定していたところ、実際の減少額を7.7億円に抑えることができたことによるもの。
- ・速報によると全国の自治体病院の83%が経常赤字であり、県下においても当機構を含め全ての公立病院が赤字の状況である。

和田委員：訪問看護ステーションきずなについて、職員数と1日あたりの訪問件数は如何ほどか。また、この訪問看護の位置づけとしては、総合医療センターを退院した患者のフォローが中心なのか。

小羽副本部長：職員は主に常勤職員で11名程度、看護師の他にリハビリ技師もいる。車の台数が現在11台で、1日に訪問可能な件数は把握していないが、同時に訪問できる件数は車台数と同数となる。また、対象はりんくう病院の退院患者が主であり、訪問範囲も常滑市内としている。半田市内には訪問看護を実施している医療機関があり、その兼ね合いから現在は常滑市に限定しているところである。

和田委員：常勤職員だけの運用ではなかなか利益が出せないと思われる。公立病院として実施する訪問看護のため、民間との競合を避ける方法としては致し方ないと思うが、黒字化対策を講じていく必要がある。

望月委員：資料2-1中、病床数の推移の表について、りんくう病院の「回復期」は何病棟を指しているのか。地ケアについても回復期と位置付けられるが、病床機能と病棟類型をしっかりと区別した方が良いのではないか。

小羽副本部長：ご指摘のとおり、この表中では病棟区分として「回復期」ではなく「回復期リハ」とするべきであり、その病床数が85床ということであるため、今後はそのように表記を改める。

望月委員：決算について、全国の自治体病院の83%が経常収支赤字ということだが、逆に言えば17%は黒字病院があるということである。その17%はほぼ地方独立行政法人の病院であり、なぜ黒字化できるかという、他の公立病院と違って人事院勧告を受け入れる必要が無いからである。貴法人は人事院勧告についてはどのように対応されているか。

渡邊理事長：機構設立当初ということもあり、令和7年度は人事院勧告どおりとしている。

望 月 委 員：確かに地独化直後ということや職員のモチベーション保持のためには必要な措置と考えるが、現状の経営状況では人件費上昇の影響が大きな課題であると認識している。

<審議>

(3) 令和7年度業務実績評価(年度評価)について(常滑市 鈴木健康推進課長)

▼業務実績評価実施要領の訂正について

資料3-1、参考資料2に沿って説明

- ・ 昨年度の評価委員会で策定した「年度評価実施要領」と「中期目標期間(見込)評価実施要領」について、評価の評定区分を決定する際に判断の目安とする業務実績の算定の表記に、一部誤りがあった。
- ・ 年度評価実施要領の「項目5 項目別評価及び総合評価」のうち、(2)大項目評価の「ウ 評定区分と業務実績の関係」について、表中の評定区分における「判断の目安となる業務実績」の算定文言が一部誤っていたため訂正するもの。
- ・ 中期目標期間(見込)評価実施要領においても、中期目標見込期間評価及び中期目標期間評価に係る「項目5 項目別評価及び総合評価」のうち、(1)大項目評価の評定区分に係る判断の目安となる業務実績の算定表記を、同様の理由から訂正した。
- ・ 訂正については法人に事前に共有し、新たな算定表記に基づき自己評価を実施していただいた。

(意見なし)

▼年度評価について

- ・ 昨年度の第7回評価委員会でお伝えしたとおり、業務実績評価のうち、評価委員会が関与することが法で規定されているのは、中期目標期間見込評価であるが、評価の客観性や透明性確保の観点から、年度評価及び中期目標期間評価についても同様に評価委員会の意見を伺い、市の評価の参考とさせていただく。
- ・ 参考資料1業務実績評価の基本方針及び参考資料2年度評価実施要領に沿って評価を実施する。最終的には資料3-2のとおり、設立団体である市が評価結果報告書を作成する。今回お示しするのは事務局案であるが、本日は本案についての説明は割愛させていただき、評価の基礎となる小項目評価について、評価委員会の評価を確定させたい。
- ・ 委員各位には事前に法人から提出をうけた小項目評価をお示しし、個別に評価を実施の上、質疑もいただいている。本日はこれを踏まえ、評価が分かれた項目を中心に法人から補足説明の上、委員にご審議いただきたい。

[第2 1. 提供する医療サービス(1) 救急医療] ※法人自己評価：4

機構法人本部 榊原本部長

- ・ 救急医療については、総合医療センターを主軸に内科・外科に加えて心臓・脳・小児の専門医が常駐する体制を整備し、400床規模の病院としては異例の1万件を超える搬送件数である。これらを受け入れるためには空床の確保が重要になるが、患者や家族、地域の医療機関の関係各所にご理解ご協力をいただき、スムー

ズな転院搬送により空床確保を実現できている。こうしたことで全体として高水準の救急医療を提供できていると考えている。

(委員会評価は、全員一致で事前評価中央値の「4」とする)

**〔第2 1. 提供する医療サービス(3) 周産期医療・小児医療〕※法人自己評価：2  
機構法人本部 榊原本部長**

- ・ 総合医療センターは地域周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠や分娩の受け入れ、あるいはNICUの運営を通じた重症新生児に対応できる体制を整備するとともに、小児分野では小児救急等を担う体制を整備している。
- ・ 令和7年度はNICUの患者数こそ目標値を上回ったものの、出生数の減少に起因してか、その他の目標を達成することができなかったため、自己評価を「2」とした。なお、分娩件数166件のうち、ハイリスク分娩が66件あったことを申し添える。

望月委員：地域として、年度計画の分娩件数210件を大幅に下回る要因となる生産年齢人口の低下があるのか。若い世代の人が日本の平均より少なければ、そもそも分娩件数目標を高く設定しすぎたのではないかと考えられる。

鈴木健康推進課長：知多半島全体では、出生数がここ数年は毎年240人ほど減少している状況であり、分娩件数に大きく影響していると考えられる。

望月委員：ハイリスク分娩は66件あり、NICUや小児患者数も一定数いることから、求められている機能としては対応できているように思うため、評価は「3」としても良いのではないかと思います。

和田委員：公立病院が単に分娩件数を目標にして良いのかという疑問を持った。むしろハイリスクな出産にいかに対応するかということが公立病院の使命ではないかと考える。その点においてはしっかり目標を達成しているし、評価は「3」で良いように思う。

渡邊理事長：温かいお言葉に感謝申し上げます。目標値は、前身の半田病院で年間300件程度の分娩件数であったため、この程度は需要があるだろうとして設定したものである。出生数の減少はあるものの、法人としての努力が不足している面があることは否定できないとして、自己評価は「2」としている。

(委員会評価は、全員一致で「3」とする)

**〔第2 1. 提供する医療サービス(4) 重要疾病への対応(がん)〕※法人自己評価：3  
機構法人本部 榊原本部長**

- ・ 総合医療センターでは、新病院の開院に伴い強度変調放射線治療装置(IMRT)の導入、薬物療法センターの拡大など、治療体制の拡充を図るとともに、頭皮冷却療法の導入などアピアランスケアによる患者の心理的負担の低減を図っている。
- ・ がん診療連携パスの拡大や、がんゲノム医療の提供体制の整備にも着手しており、地域がん診療連携拠点病院として求められる体制の整備を進めている状況である。

- ・ 引き続き、手術、放射線治療、薬物療法などを組み合わせた治療を実践するとともに地域医療機関との連携や相談支援、あるいは仕事との両立の支援など患者やそのご家族に寄り添った支援体制を充実させたいと考えている。

(委員会評価は、全員一致で事前評価中央値の「3」とする)

## **〔第2 1. 提供する医療サービス(5) 重要疾病への対応(脳卒中、心筋梗塞)〕**

※法人自己評価：4

機構法人本部 榊原本部長

- ・ 総合医療センターには脳卒中集中治療室(SCU)と心臓病センターを設置し、24時間365日の体制で専門医の配置と患者導線の効率化により、迅速な対応が求められる脳卒中や心筋梗塞の患者に対し、高度かつ専門的な医療を提供できる体制を整備している。
- ・ 一部目標未達成の分野はあるものの、救急搬送患者に必要とされる高度かつ専門的な医療をより迅速に提供することができたと考えている。
- ・ 一方、リハビリテーション分野においては、急性期から回復期、在宅まで切れ目のない支援を提供し、急性期と回復期を合わせた実施単位数では目標を達成した。また、早期のリハビリ介入や土日を含めたりハビリ提供などにより、回復期病棟指標と実績指数が示すとおり高い水準を維持し、患者の早期機能回復、在宅復帰に貢献することができたと考えるため、自己評価を「4」とした。

和田委員：法人の大きな特徴として、循環器系の他に心臓疾患についてもかなりの高水準でやっているという印象を持っている。特に予防的な意味で訪問看護も注力しているという記述から、私としても非常によくやられているなど感じた。

望月委員：目標値を下回っている項目は脳血管内治療件数であるが、今はほぼ脳動脈瘤は血管内治療になってきているので、これは今後伸びてくるのではないかと。また、特にりんくう病院の土日を含めたりハビリテーションはよくやられていると思うので、私は評価「4」とした。

渡邊理事長：私自身も専門が脳神経外科であるが、患者の状況に合わせてどの治療が良いのかを判断している中で、血栓溶解などが指標に入っていないため、目標指標については今後検討していきたいと考えている。

(委員会評価は、全員一致で事前評価中央値の「4」とする)

## **〔第2 1. 提供する医療サービス(9) 高度生殖医療〕※法人自己評価：2**

機構法人本部 榊原本部長

- ・ 全ての指標において目標未達となったため、自己評価を「2」とした。
- ・ 一方、妊娠率という指標については、全国平均の20.6%を大きく上回る47.0%という高い治療実績を実現している。
- ・ 今後の課題は情報発信の枠組みと考えており、これを拡大して医療圏を越えた集客を図っていきたい。

望 月 委 員：不妊治療には保険適用になるものもあり、ほぼ保険適用の治療だとすると件数は増えてくるものではないか。

小羽副本部長：保険適用になってからずっと増え続けていたが、地域としては頭打ちとなっている印象がある。対象となる患者が働き盛りの年代であり、担当医師からは診療時間が平日外来に限られることが障壁になっているのではとされているところである。

望 月 委 員：その辺りもサービスとして解消できると良い。

（委員会評価は、全員一致で事前評価中央値の「2」とする）

**【第2 2. 医療の質と成長（1）コミュニケーションの充実】※法人自己評価：3  
機構法人本部 榊原本部長**

- ・ クリニカルパスの活用により患者家族への説明がスムーズになったことで、相互理解による適切なインフォームドコンセントを推進することができた。とりわけ患者用説明パスの整備については患者の理解度向上に有効と考えて取り組んでいる。
- ・ 総合医療センターのクリニカルパスについては適応率が56%となったものの、まだまだ拡大を進める必要があり、りんくう病院も含め更なる拡大に努め、患者と医療従事者の相互理解に基づく医療を推進していきたい。

（委員会評価は、全員一致で事前評価中央値の「3」とする）

**【第2 2. 医療の質と成長（3）時代に即した医療の提供】※法人自己評価：4  
機構法人本部 榊原本部長**

- ・ 高度急性期医療に関しては、総合医療センターを中心に実施しており、高度な医療機器や EICU、GICU、SCU、NICU といった集中治療室を整備、運用することにより、安定的に医療を提供することができたと考えている。
- ・ 新規入院患者数の増加は、平均在院日数の短縮、すなわち効率的な医療の提供に支えられているものであるが、内部的には患者及び職員導線の効率化、病床・手術室の稼働の効率化などを図るとともに、複数の診療科において多職種が早期から介入できる環境を整備することで、迅速かつ切れ目のない安全な医療に繋げることができた。また、対外的には地域の医療機関の訪問活動などを通じて、地域連携を強化することにより、新規患者の獲得と早期転院を可能としたことも、新規入院患者の増加の大きな要因になっていると考え、自己評価を「4」とした。

望 月 委 員：ロボット手術を200件は実施して欲しい。今回の診療報酬改定で200件を超える施設は内視鏡手術用支援機器加算の対象になる。法人内では泌尿器の手術が多くなっているか。

岡 田 院 長：泌尿器科が一番多い件数となっている。今は外科で胃がんのロボット手術を開始したところであり、鼠径ヘルニアについても取組を始めようとしているところである。若手のトレーニングという意味合いもある。そのようなところで徐々に増えていくと考えている。

望 月 委 員：引き続き取組を進められたい。この項目に関しては法人の自己評価と同じ「4」で良いのではないかな。

（委員会評価は、全員一致で事前評価中央値の「4」とする）

**〔第2 3. 地域連携（1）地域医療構想における役割〕 ※法人自己評価：4**  
**機構法人本部 榊原本部長**

- ・ 脳卒中、心筋梗塞などの重要疾病については、総合医療センターは高度急性期から急性期、りんくう病院は回復期、と役割分担を行い、地域の関係機関との連携のもと、切れ目のない医療を提供することができた。
- ・ 総合医療センターでは、救命救急センターにおける救急搬送の受け入れ、地域周産期母子医療センターとしてハイリスク妊娠及び分娩の受け入れ、NICU の運営による重症新生児への対応、小児分野では小児健診や入院医療の受け入れなどを担うとともに、災害拠点病院としても、様々な訓練を主催し共同訓練にも参加するなど、機能と連携の強化を図ることができた。
- ・ 一方、りんくう病院においては回復期を担う医師の確保など、回復期機能の充実を図っている。
- ・ こうした取組により、地域医療構想において求められる役割を十分担っているとして、自己評価を「4」とした。

望 月 委 員：新たな地域医療構想における医療機関機能報告について、総合医療センターはもちろん急性期拠点機能で良いと思うが、りんくう病院の機能をどのように捉えていくかを考えることが重要になる。高齢者救急地域拠点機能とするのか、あるいは専門の回復期リハビリテーション機能があるので、専門等機能とするのか。評価に直接関係があるものではないが、お伝えする。

（委員会評価は、全員一致で事前評価中央値の「4」とする）

**〔第2 3. 地域連携（2）地域の医療機関への支援〕 ※法人自己評価：3**  
**機構法人本部 榊原本部長**

- ・ 労働人口の減少が進行する中において、地域全体の医療を支えていくという方針のもと、地域の医療機関との役割分担と連携強化に努めてきた。
- ・ 令和7年度は医療機関訪問を150件程度実施した。今後もこうした取組を重ね、地域医療機関や介護施設及び福祉施設の方々と意見交換をすることで、お互いに信頼関係を構築し、地域医療を支えていきたいと考えている。

和 田 委 員：急性期病院はクリニックから紹介してもらって当然という意識は法人内にないか。患者を紹介してもらったことについて、どのように還元していくかを考えることが重要だと思う。クリニックと病院が一体になって、より良いサービスを提供していくための地域連携推進会議などは開催しているか。

渡 邊 理 事 長：委員からご指摘されたような、地域のクリニックに還元していくという意識については、幹部は強く持っているところだが、一般の医師は



そこまでではないかもしれない。院長始め副院長においては、院内会議の中で訪問したクリニックを紹介したり、クリニックからの紹介があって自分たちの医療が成り立っていることを啓蒙したりしている。特に、返書は必ず書くように伝えている。

和田委員：かつて会議に参加していた病院では、紹介してくれたクリニックに感謝状を出していた。そういった取組を実施しても良いのではないか。

中條委員長：私自身は半田市医師会長として地域クリニックの立場であるが、感謝状でなくとも、まず救急医療をきちんと受け入れてくれること、返書にあたっては検査を実施するという返事だけでなく、どのような疾患だったかを結果として返していただくことで十分であり、それが一番嬉しいかもしれない。

望月委員：県立病院長時代に、連携のために年1回の懇親会を実施した経験があるが、紹介数のトップ3に表彰状を渡そうというなかなか面白い試みがあった。こういった形でも、顔が見える連携が重要だと思う。

（委員会評価は、全員一致で事前評価中央値の「3」とする）

〔第2 3. 地域連携（3）地域の医療水準向上への貢献〕 ※法人自己評価：3

機構法人本部 榊原本部長

・補足なし

（委員会評価は、全員一致で事前評価中央値の「3」とする）

望月委員：この規模の病院にしては、臨床研修医の数が少ないように思う。

渡邊理事長：8人であるが、実際には10人ぐらい欲しい。しかしながら、配分の計算式によるとそのような人数になってしまう。

〔第2 4. 半田市・常滑市の医療施策の推進における役割（1）保健・医療・福祉行政との連携〕 ※法人自己評価：3

機構法人本部 榊原本部長

・補足なし

（委員会評価は、全員一致で事前評価中央値の「3」とする）

〔第2 4. 半田市・常滑市の医療施策の推進における役割（2）災害医療体制の充実〕

※法人自己評価：3

機構法人本部 榊原本部長

・補足なし

（委員会評価は、全員一致で事前評価中央値の「3」とする）

〔第3 1. 効率的な運営管理体制の確立（2）柔軟かつ効率的な業務運営〕 ※法人自己評価：4

機構法人本部 榊原本部長

- ・ 両病院の機能分担を進めて、選択と集中による医療従事者・医療機器といった医療資源の効率的な運用に努めた。
- ・ チーム医療や委員会活動による多職種協働等の部署を超えた連携は言うまでもなく、直線距離で約3キロメートルという相互メリットを活かして、病院間の柔軟な人材活用にも努めており、医師の診療や相互協力、多職種において待機当番や休暇取得の応援体制を構築するなど、2つの病院が1つの組織になったメリットを最大限活かした人材活用を行っている。
- ・ また、総合医療センターについては新築移転したということもあり、院内運用検討ワーキンググループを組織して、移転前に気付くことができなかった課題改善に取り組んでいる。
- ・ 更には、両病院ともにボトムアップによる改善提案といった職員全体の改善意識の向上に繋がるような取組を実践している。

和田委員：事前質問では、法人運営の中身がよくわかっていなかったもので、効率的な業務体制が確立されているか、地方独立行政法人の特性をしっかりと取り入れて運営しているかという質問をさせていただいた。それに対して法人からは独法ならではのメリットをどんどん取り入れていると回答いただいたので、評価「4」として良いのではないかと思います。

（委員会評価は、全員一致で事前評価中央値の「4」とする）

#### 〔第4 1. 健全経営（2）収入の確保〕※法人自己評価：3

##### 機構法人本部 榊原本部長

- ・ 両病院の機能分担を進めた結果、総合医療センターへの急性期患者の集約が進み、総合医療センターの稼働率及び入院診療単価は目標を達成する反面、りんくう病院の急性期病床は目標を下回る結果となった。
- ・ りんくう病院については、総合医療センターからの転院円滑化などに努めたものの、回復期リハビリ病床、地域包括ケア病床についても、稼働率は目標値を達成できなかった。

望月委員：回復期リハ病床稼働率の目標値97%は高すぎる印象があり、90%程度が一般的なのではないか。また、先ほど総合医療センターの平均在院日数が8.6日とのことだったが、手術件数が5,000件超で救急車受入件数が1万件超の状況で416床運用というのはなかなか大変なのではないか。

渡邊理事長：回復期は常に満床の状態で100%を目指しているところである。別の病院であれば、委員のおっしゃるとおりで良いと思うが、あくまで1つの病院のうちの2つの病棟と考えているため、高い稼働率を目標に掲げている。手術件数5,000件は両病院合わせての件数である。

望月委員：2つの病院で総括して考えているという視点は良いと思う。

岡田院長：例えば、頸部骨折で総合医療センターに救急搬送されて整形外科で手術を行い、その後リハビリはりんくう病院で行うという流れが既にできているため、平均在院日数が短くなっているという特徴がある。

望月委員：素晴らしいことだと思う。

(委員会評価は、全員一致で事前評価中央値の「3」とする)

**〔第5 3. 法令・社会規範の遵守および情報公開(1) 情報セキュリティ・個人情報保護の徹底〕 ※法人自己評価：3**

機構法人本部 榊原本部長

- ・ 補足なし

和田委員：過去に大規模病院がサイバー攻撃を受けて、半年間電子カルテが使用できなかった事例がある。外部委託先のネットワークを経由して侵入したということであり、この法人においても、侵入されたらどう対応していくのか、BCP対策をしっかりと立てなければならないのではないかと、また、委託先では情報セキュリティ対応が厳密になされているのかを監視する必要もあり、それを委託の条件にするぐらいでないと、いつか攻撃の対象になるのではと危惧している。

望月委員：国においても、サイバー攻撃への対応を踏まえて病院にSE等を含めた人員配置を求めてきている。SEも人材不足という現状から、各病院に配置することは現実的ではないが、この法人規模では配置を考えた方が良くもしい。

渡邊理事長：法人としても必要性を大いに感じている。

(委員会評価は、全員一致で事前評価中央値の「3」とする)

**〔第5 3. 法令・社会規範の遵守および情報公開(2) コンプライアンス体制〕**

※法人自己評価：3

機構法人本部 榊原本部長

- ・ 補足なし

(委員会評価は、全員一致で事前評価中央値の「3」とする)

**〔第5 3. 法令・社会規範の遵守および情報公開(3) 情報公開〕 ※法人自己評価：4**

機構法人本部 榊原本部長

- ・ 令和7年度は法人設立元年ということもあり、特に積極的な情報発信に努めた。機関誌の「てとて」、あるいはホームページによる定例的な情報公開に加え、SNSを始めとして、対象者を意識した多様な媒体の活用に取り組んでいる。
- ・ とりわけ、クラウドファンディングの実施は、地域企業に当院の活動を知ってもらう絶好の機会になったと考えている。またクラウドファンディングはSNSによる情報発信の効果が数値として実感できるものであった。

(委員会評価は、全員一致で事前評価中央値の「4」とする)

**3. その他**

特になし

#### 4. 閉会

##### 次回開催

第9回 令和8年9月30日(水)

※開始時間を 14 時から 13 時 30 分に変更予定